

太陽光

静岡県函南町で

「函南ソーラーパーク」が稼働

東西配置で敷設率を高め、75%と245万キロワットを合計770キロワットを出力する2012・41キロワットの「函南ソーラーパーク」が、11月21日に竣工式を挙げて稼働した。太陽光パネルを東西に設置し、通常の南向き配置と比べ、単位面積当たりの敷設率を高めるとともに、また、事業用地が農業振興地域に囲まれた飛び地になつたため、様々な地形に対応して太陽光パネルを東西配置するため、傾斜地形用の三次元架台「オンサイト調整

スマートソーラー



スマートソーラー（東）京都市中央区は、静岡県野東部に位置する函南町。電池モジュール2種（2元架台）「オンサイト調整

汎用の高強度アルミ専用架台を開発した。美ソーラーパークも連開させた。11月26日には現地での竣工式を挙げて、売電は10月に既に開始されている。

スマートソーラーは宮城加美町で建設を進めていた太陽光発電所「加美ソーラーパーク」も連開させた。11月26日には現地での竣工式を挙げて、売電は10月に既に開始されている。

宮城加美町では2.4メガワット発電所が運開 自社開発の積雪対応架台導入

スマートソーラー

PCSにはSUNGROW製を採用している。「函南ソーラーパーク」と同じく、トランスを分散配置し、影・方位・傾斜角のばらつきに伴うロスを最小化するよう工夫した技術の導入や、工場によつて、通常の南向きの配置と比べて発電量を約17%向上させたという。発電所にはトリナントソーラー製の単結晶315ワット太陽光モジュールを合計7707枚設置して、最大出力は2.4メガワットとしている。



「加美ソーラーパーク」全景（提供：スマートソーラー）

社開発した積雪対応架台を採用。特に本発電所ではモジュールが隣接する部分が長く、ここに雪の吹き溜まりがでやすいため、雪の対策としてモジュールの傾斜角を設計・調整し、建設・運用・O&Mまでを手掛けている。南北に細長い所（合計69キロワット）が稼働済みで、北海道の釧路（34・0キロワット）や熊本県の山鹿C（34・0キロワット）（建設中、それぞれ3・4キロワット）など4カ所（合計93キロワット）の大規模太陽光発電所を建設中。そのうち自社所有は千葉県の8キロワットになる。

加美青木原発電所建設工事



「加美ソーラーパーク」より。前列左から2番目がスマートソーラー・手塚博文社長、後列左から2番目が同社・手塚裕土取締役（提供：スマートソーラー）